

<白金標準、8月からの下落基調の終焉に備える・・・>



(出所：オアシス)

8月以降、為替市場におけるユーロドルの弱さが白金価格の戻りを抑え、一時8000円を下回る水準まで押し下げている。特にフランスの財政赤字拡大や政情不安の問題がフランス債を売り込む動きに結びつき、2015年以降、南欧問題が浮上したソブリン債リスクの折のユーロ安時の白金価格の下落を思い浮かばせる。ただソブリン債リスク時のユーロ安を当時のドラギ ECB 総裁は「ユーロ防衛で何でもやる」と発言を機に、ユーロや白金価格は巻き戻しの値動きを見せている。今回も ECB メンバーであるナゲル・ドイツ連銀総裁は「ECBの道具は物価安定の確保のため、債券購入を実施する可能性は排除しない」と述べており、ユーロ防衛に動く場合は、過去の値動きを参考にするとユーロの買い戻しから白金価格も同様に買い戻しの動きを見せてくると思える。

特に白金標準先物の日足を見ても、8月の9653円をピークに様々な要因やユーロ安の動きに抑えられ、先週に7994円まで下値を試すも、8000円を割り込む水準は今年に9日日間しか存在しない事からも、行き過ぎた水準と見ることができ、アンダーシュートに近い水準と捉えれば、戻りを待つポジションが有効になると思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が下げ渋り、**シグナル**は下げている。RCI では**短期**が切り下げ、**長期**は維持している。また指数平滑移動平均線のレンジに日足が移行しており、下げ止まる値動きに思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 6,150,000 円(2026 年 10 月 13 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 91,520 円(2026 年 10 月 13 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>